

前述した4項目について
右の式に示す数式によって
それぞれ有効度指数を求め
「モラルの高揚を評価する
観点」についてのプロフ
ィールを作成し、「週学校運営計画」による本
校教職員のモラルの変容を分析した。

$$\text{有効度指数} = \frac{\text{事後調査点数}}{\text{事前調査点数}} \times 100$$

	観 点	事前 得点	事後 得点	有効度 指 数
1	職員会議への参加意識	47点	50点	106, 4
2	校務分掌遂行意識	73点	73点	100, 0
3	校内研修参加意識	70点	71点	101, 4
4	コミュニケーション意識	63点	67点	106, 3

イ. 第二学期末「学校経営反省会」からの事項

※ 「人間関係」領域からの主な内容

- 共に歩む姿勢が各先生方にみられた。
- 年ごとに、教師間のラポートがよくな
ってきている。さらに、努力したい。
- もっと、自分の意見を出して欲しい。

※ 「個人の満足度と意欲」領域から

- 学校で仕事をするのが楽しい。現在、
進めている仕事に意欲が出てくる。
- 努力をすることにより成果があがり、
満足できるということを、生徒も教師も
除々にわかってきたように感じられる。
- 忙しい毎日だったが充実していた。

(以下 略)

④ 意識の変容についての考察

ア. 本校教職員のモラルの高揚についての
教職の変容を「プロフィール」からみてみ
ると、「校務分掌遂行意識」については有
効度指数が同じであり、有効性は認められ
なかったが、「職員会議・校内研修・コミ
ュニケーション」意識には有効性が確かめ
られた。特に「コミュニケーション意識」
の変容が大きい。これは、本校職員に関す
るエッセイ・トピックス等を紹介すること

により、職員相互の理解・近親感が深まり
コミュニケーションのきっかけになったも
のと思われる。勿論、本研究の実践場面は
限られているので、研究の結果と結論づけ
ることは早計であり、本校の種々の教育活
動が有機的に作用した結果と考えることが
必要であろう。

※ 学校経営反省事項から本校職員のモラ
ールについて「人間関係・個人の満足度と意
欲」領域から考察すると大変望ましい傾向
にあることがわかる。これについても、上
記のように、種々の教育実践の結果と思わ
れるが、研究として取り組んだ「週学校運
営計画」もモラルを高揚する一方法とな
り得ることができたのではと思われる。

5. 今後の課題

- (1) 教職員のモラルを高揚し、人間関係をよ
り望ましいものとし、コミュニケーションを活
発にするためには、週一度の「学校運営計画」
では紙面的に質・内容ともに限界があるため、
広く職員の意見を集約できる広報活動を研究し
ていく必要がある。
- (2) 教育情報欄の内容が形式的・マンネリにな
らないよう、また、興味・関心・意識の高揚を
はかれるものとなるよう作成者自身の研修を深
めるとともに、職員の協力を得られるよう組織
の検討も必要である。
- (3) 職員会議等の決定事項を日常の実践活動に
位置づけるためには「週学校運営計画」でチェ
ックしていくことが大変効果的であったので、
今後とも、意図的・計画的に作成するよう一層
の改善・研究をしていく必要がある。
- (4) 作成した「週学校運営計画」に実際に実施
した結果などを記録し、集積していけば教育課
程の管理にも有効と思われるので、今後は、「学
校運営計画」の作成—実践—反省のサイクルに
ついて研究を深めていきたい。